

指示代名詞の指示領域をもとにした空間領域感についての一考察

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-06-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小西, 啓史, 野沢, 久美子 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1012

指示代名詞の指示領域をもとにした 空間領域感についての一考察

A Study on Spatial Domain Feeling Based on Instruction Area of Instructed Pronoun

小 西 啓 史*
KONISHI, Hiroshi

野 沢 久 美 子**
NOZAWA, Kumiko

要 約

われわれは自分を取り巻く空間をいくつかの領域に分けて認識している。コミュニケーションをとる際にはこのことがより鮮明になり、“自分の空間（自己領域）”、“相手の空間（他者領域）”、“それ以外の空間（第三者領域）”という3つ空間の分節が生じる。

本研究では、こうしたコミュニケーション時における認知空間の分節を明らかにすることを目的として調査を行った。調査参加者は大学生100名（男性18名、女性82名）であった。領域感を測定する方法として指示代名詞法（小西・北岡・荒井・中屋,2000）が用いられた。また、対面、並列、対向の3つの座席配置が用意され、

調査参加者は、ダイニングテーブルを想定した質問紙上に置かれた対象物を指し示すときに“コレ”“ソレ”“アレ”の指示代名詞のうちどれを使うか、回答を求められた。

その結果、対象の置かれた位置によって使われる指示代名詞が異なっており、物理的境界がなくても自己領域、他者領域、第三者領域という3つの空間領域が明確に認識されていることが明らかになった。また、自己領域は座席配置が変わっても比較的広さも形も安定していたが、他者領域や第三者領域は座席配置によって広さも大きさも大きく変化することが明らかになった。

キーワード：空間領域、空間分節、自己領域、指示代名詞

* 人間科学研究所研究員／人間科学部人間科学科教授

** 平成17年度武蔵野大学大学院人間社会・文化研究科修士課程修了

問 題

パーソナル・スペース (personal space) とは、人間の空間行動を説明するために提唱された概念であり、空間行動研究において最も頻繁に用いられる概念である。そのルーツはエソロジーや動物学などの動物研究にあり、このことばを最初に用いた Katz (1937) は、カタツムリの殻を例にパーソナル・スペースという概念を用いている。

Sommer (1959) は、パーソナル・スペースを「人の身体を取り囲む目に見えない (invisible) 境界をもった他者に侵入されたくない領域で、なわばりとは異なり地理的照合点をもたず、個人とともに移動 (portable) する」と定義している。この定義で重要な点は「目に見えない」ということと「移動可能である」という点である。

空間行動研究において使われるもうひとつの重要な概念に対人距離 (interpersonal distance) がある。対人距離とは、コミュニケーション (対人的相互作用場面) において相手との間にとられる物理的距離のことである。Hall (1966) はとられる対人距離は相手との関係性によって異なることを明らかにし、①親密距離 (intimate distance)、②個体距離 (personal distance)、③社会距離 (social distance)、④公共距離 (public distance) の4つに分類した。

パーソナル・スペースと対人距離は類似した概念であるが、大きな違いもある。対人距離は、相手との間に置かれる空間という点では物理的環境に実際に存在し、見ることができるものである。これに対してパーソナル・スペースは空間行動を説明するために想定された概念であり、Sommer の定義にもあるように身体を取り囲む目に見えないものである。われわれは他者とコミュニケーションをとるときに相手とある一定の距離をとるが、それはパーソナル・スペースを維持するためであると説明される。

しかし、パーソナル・スペースは単に空間行動を説明するためにだけ用いられるものではない。われわれは目に見えないが自分を取り囲む空間領域の存在を意識し、その境界線を認識しているものと考えられる。すなわち、われわれは、そこに見ることができる物理的な境界線 (地理的照合点) がなくても境界を認識することができるのである。

このことについて今井 (1978) は、「カニツアの三角形 (Kanizsa triangle)」(Kanizsa, 1955) を例に、物理的には輪郭線が存在していなくても主観的輪郭が存在していることを指示代名詞の指示領域の視点から検討した。指示代名詞とは“コレ”“ソレ”“アレ”などものを指し示すときに用いられることばで、それを使用する人の空間認識のあり方を強く反映するものである。実験の結果、個々の代名詞に結びついた特定の空間領域が明確に存在し、認知されていることが明らかに

なり、認知空間が分節していることを証明した。

西出・高橋・渡辺（1988）も、指示代名詞の使い分けによってパーソナル・スペースの領域分節が生じていることを明らかにしている。小西（1988）は、公的なわばり（Altman,1975）における先着者の優位性を明らかにする際に、この方法を用い、その有用性を検証している。また、小西・北岡・荒井・中屋（2000）は、相手との位置関係（座席配置）によって指示領域が変化することを明らかにし、ここでも認知空間の分節において指示代名詞法が有用であることを示した。小西・野沢（2015）は、教室空間を対象に、「前」、「後ろ」、「真ん中」、「端っこ」、「隅っこ」という空間表現語であらわされる5つの領域が教室内に存在していることを明らかにした。教室内に存在する潜在的空間領域については北川（2003）も言及している。それによると、教室は「前方ゾーン」「中央ゾーン」「後方ゾーン」「左右両端ゾーン」に分かれている。

そこで本研究では、2者間でとられる空間配置の型（座席配置）によって指示代名詞の指示領域がどのように影響を受けるのかを明らかにすることを目的とする。今回用意された仮説モデルはFigure 1に示すとおりである。すなわち、“コレ”で示される領域は自己領域、“ソレ”で示される領域は他者領域、“アレ”で示される領域は第三者領域を示すものであると考えられる。

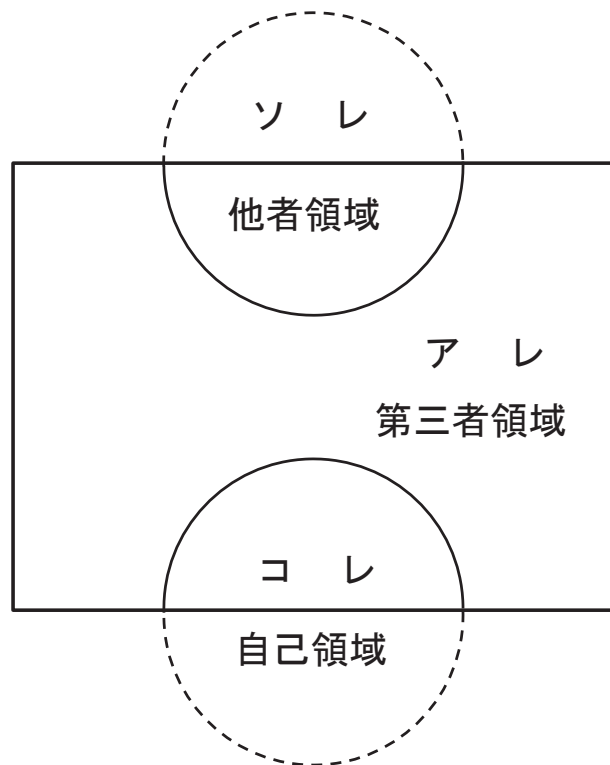


Figure 1 指示領域モデル

方 法

調査参加者 武蔵野大学人間科学部人間科学科の学生 105 名（男性 21 名、女性 84 名）が調査に参加した。

呈示刺激 矩形のテーブル（一般家庭で用いられるダイニングテーブルに多いサイズである 130cm × 80cm を想定した。実際に調査用紙に描かれたのは 10cm × 5cm である）の長辺部にそれぞれ 2 脚、計 4 脚の椅子が配置されていることを想定した図を用意した。ここに 2 人の人間が座っているものとし、自分が◎で、相手が○で示された。2 人の座る位置、すなわち座席の配置は“対面”“並列”“対向”の 3 つである。

短辺を 7、長辺を 12 に分割し、それを組み合わせることで計 84 ポイントがテーブル上に用意された。個々の参加者には、短辺部 1～7 それぞれにおいて長辺部 1～12 のうちから 1 ポイントをランダムに選び、テーブル上に示した。すなわち、7 つの指示ポイントが各座席配置に示された（Appendix 2. 回答用紙例を参照）。

手続き 調査は、人間科学科の「対人行動論 2」を受講している学生を対象に、授業終了後に上記の調査用紙を一斉に配布する方式で実施した。参加者には、テーブルに自分ともうひとりの人が座っていると考えるように教示した（◎が本人、○が相手）。そして、テーブルの上に示した番号（①～⑦）のところに物が置かれていると想定し、それを相手に指し示すときに、“コレ”“ソレ”“アレ”のうちどの指示代名詞を使うかを答えるように求められた。個々の参加者に与えられたのは 1 枚の用紙に 3 つの座席配置（対面、並列、対向）が描かれており、それぞれの配置につき 3 パターンの物の配置を示した計 3 枚の調査用紙である。それぞれの座席配置に指示対象地点として 7 ポイントが示されており、合計 63 個（7 ポイント × 9 座席配置）の対象に対して、どの指示代名詞を使うかが尋ねられた（Appendix 1. 教示、2. 回答用紙例を参照）。

結 果 と 考 察

105 名のデータの中から欠損のある回答を除き、最終的には 100 名（男性 18 名、女性 82 名）のデータが分析の対象となった。その結果、63 か所ある指示ポイントはそれぞれ 25 名の参加者によって判断された。すべての回答をまとめて、指示代名詞の指示領域を座席配置ごとに示したのが Table 1 である。また、Figure 2 は、Table 1 をもとに、25 名中 15 名以上が選択をしたものをそのブロックの指示代名詞としてあらわしたものである。

Table 1 指示ポイントごとに使用された指示代名詞
(1:コレ 2:ソレ 3:アレ)

	A			B			C			D			E			F			G			H			I			J			K			L					
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3			
①	0	24	1	0	23	2	1	21	3	0	23	2	1	24	0	1	23	1	0	20	5	1	14	10	0	6	19	0	1	24	0	1	24	0	1	24	0	0	25
②	3	17	5	1	20	4	0	24	1	1	24	0	1	24	0	0	22	3	0	21	4	0	10	15	1	2	22	0	1	24	0	1	24	0	0	25	0	0	25
③	1	21	3	4	19	2	0	24	1	0	21	4	3	21	1	0	19	6	0	19	6	0	9	16	0	2	23	0	3	22	1	0	24	0	0	25	0	0	25
④	5	17	3	6	18	1	3	20	2	10	15	0	5	17	3	6	14	5	2	8	15	0	4	21	1	9	15	0	2	23	1	1	23	0	2	23	0	2	23
⑤	14	10	1	12	13	0	24	1	0	18	7	0	14	11	0	15	8	2	16	4	5	4	12	9	1	8	16	1	0	24	0	2	23	0	1	24	0	1	24
⑥	23	2	0	25	0	0	24	1	0	23	2	0	23	2	0	16	7	2	19	5	1	1	13	11	1	9	15	1	2	22	0	2	23	0	2	23	0	2	23
⑦	23	2	0	25	0	0	24	1	0	23	2	0	23	2	0	24	0	1	18	6	1	1	12	12	2	7	16	2	5	18	1	4	20	1	4	20	0	0	25

対面

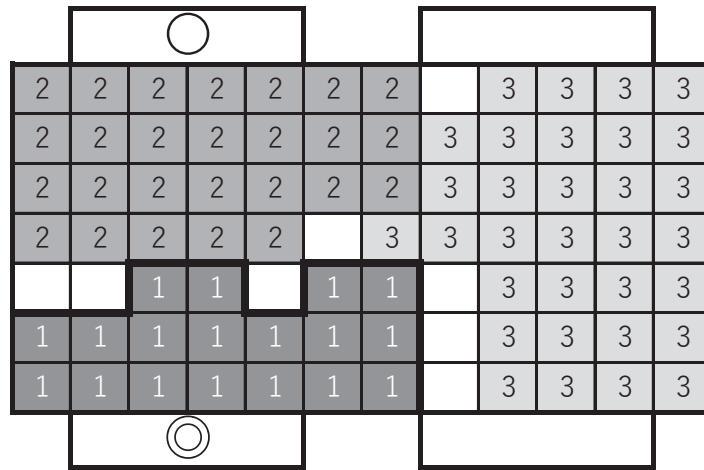
	A			B			C			D			E			F			G			H			I			J			K			L					
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3			
①	0	1	24	0	1	24	0	0	25	0	0	25	0	1	24	0	4	21	0	2	23	0	2	23	0	0	25	0	1	24	0	0	25	0	0	25	0	1	24
②	0	2	23	1	7	17	2	4	19	1	2	22	0	1	24	1	1	23	0	4	21	0	4	21	0	3	22	0	3	22	1	0	24	0	0	24	0	4	21
③	1	6	18	3	5	17	1	14	10	2	8	15	0	8	17	0	13	12	1	9	15	1	4	20	0	7	18	1	17	7	0	14	11	0	4	21			
④	5	7	13	15	6	4	5	11	9	6	17	2	7	13	5	3	14	8	4	20	1	3	15	7	1	18	6	0	12	13	0	8	17	0	17	8			
⑤	15	8	2	18	6	1	15	9	1	15	10	0	22	1	2	11	13	1	5	20	0	3	21	1	0	21	4	0	22	3	0	22	3	0	19	6			
⑥	21	3	1	23	2	0	24	1	0	25	0	0	24	0	1	21	4	0	6	19	0	3	22	0	3	22	0	1	21	3	0	24	1	0	20	5			
⑦	24	1	0	24	1	0	22	3	0	25	0	0	25	0	0	22	3	0	7	18	0	4	21	0	1	23	1	1	21	3	1	23	1	1	20	4			

並列

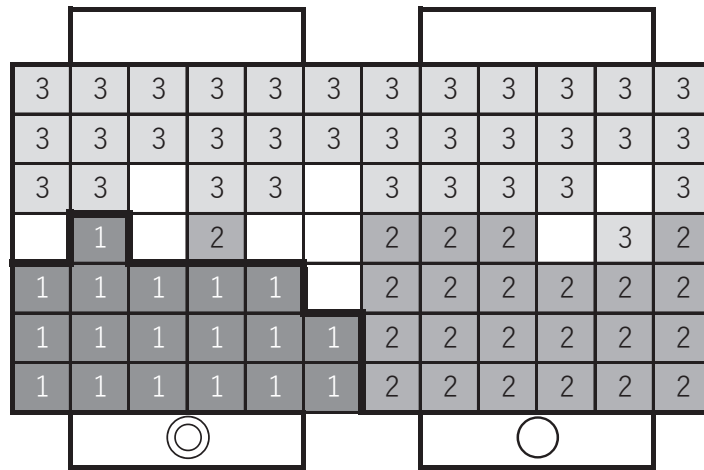
	A			B			C			D			E			F			G			H			I			J			K			L		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
①	0	0	25	1	4	20	0	3	22	1	8	16	1	16	8	0	17	8	2	22	1	1	23	1	0	25	0	2	22	1	1	24	0	1	22	2
②	1	1	23	1	7	17	1	9	15	1	8	16	1	10	14	0	16	9	0	24	1	2	23	0	1	23	1	0	25	0	1	24	0	0	20	5
③	5	5	10	2	4	19	1	7	17	6	9	10	1	16	8	1	21	3	0	24	1	1	24	0	0	23	2	0	23	2	1	17	7	1	11	13
④	12	6	7	11	5	9	10	5	10	8	13	4	6	17	2	5	13	7	2	13	11	0	20	5	0	18	7	0	17	8	0	15	10	0	10	15
⑤	17	7	1	21	2	2	18	6	1	16	8	1	15	7	3	13	10	2	9	10	6	1	13	1	3	11	11	0	10	15	0	8	17	0	2	23
⑥	23	1	1	22	2	1	23	2	0	25	0	0	22	1	2	17	8	0	15	10	0	3	12	10	1	12	12	0	6	19	2	3	20	0	5	20
⑦	23	2	0	24	0	1	25	0	0	23	1	1	25	0	0	24	1	0	16	6	3	12	9	4	2	11	12	1	5	19	0	3	22	0	1	24

対向

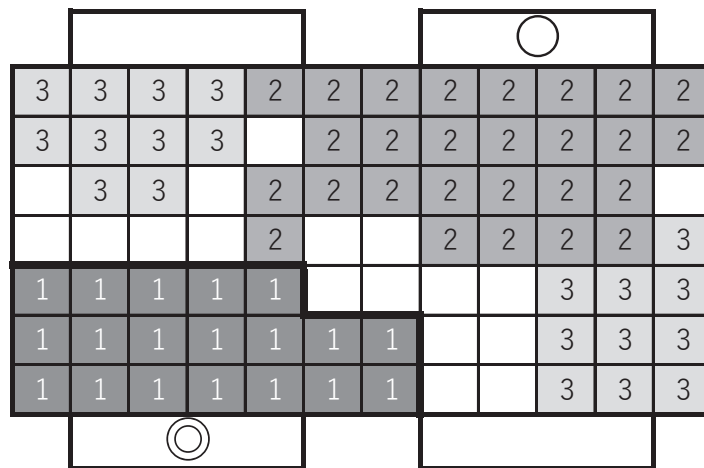
*A~Lはテーパー長辺部、①~⑦はテーパー短辺部を示す。いずれのポイントも25名のデータ。



(1)対面配置における指示領域



(2)並列配置における指示領域



(3)対向配置における指示領域

Figure 2 座席配置と指示領域

1: コレ 2: ソレ 3: アレ

Figure 2 を見ると、どの座席配置においても3つの指示領域がはっきりと区別されていることが分かる。これは、物理的境界（地理的照合点）がなくとも認知空間の分節が明確に生じることを示すものであり、小西ら（2000）の研究とも同様の結果であった。

以下に示す指示領域の面積は、1ブロック約120cm²（11cm × 11cm）として算出したものである。

コレの示す領域 参加者を起点として、対面配置では18ブロック（2,160m²）、並列配置では18ブロック（2,160m²）、対向配置では19ブロック（2,280m²）であり、3つの座席配置ともにほぼ同じ面積であった。

ソレの示す領域 相手（他者）を起点として、対面配置では26ブロック（3,120m²）、並列配置では22ブロック（2,640m²）*これ以外に離れた場所に1か所あった、対向配置では27ブロック（3,240m²）であった。並列配置では他の2つの配置と比べて面積が狭かった。

アレの示す領域 対面配置では32ブロック（3,840m²）、並列配置では34ブロック（4,080m²）、対向配置では20ブロック（2,400m²）であった。対向配置では領域が2つに分割され、面積も狭かった。

“ソレ”“アレ”の示す領域は座席配置によって形状や広さが大きく変化した。それに対して、“コレ”の示す領域は座席配置が異なっても大きな変化はなかった。空間的制約（テーブルの広さ）のため対面配置では前方にいる相手からの圧力、並列配置では隣にいる相手からの圧力を受けるため若干狭くなるものの、広さは概ね一定であった。これらのことから、個人に帰属する空間（自己領域）は状況が変わっても比較的安定しているものと考えられる。また、他者領域や第三者領域に比べて自己領域は狭い傾向が見られた。

対向配置では他者領域が拡大する傾向にあり、結果として第三者領域が縮小した。また第三者領域は2つの領域に分割して認識されていた。

本研究の結果、コミュニケーションのときには自分の身体を取り巻く認知空間がいくつかの領域に分けて認識されていることが明らかになった。“コレ”が示す領域は自己に所属する空間であり、これはパーソナル・スペースの存在が個人に認識されていることを示すものであった。また、自己領域は状況が変わっても比較的安定した大きさであること、一方他者領域や第三者領域は状況によって広さも形状も大きく変化することが明らかになった。

引用文献

- Altman, I (1975) The environment and social behavior: privacy, personal space, territory and crowding. Books/Cole.
- Hall, E. (1966) The hidden dimension. New York: Doubleday. (日高敏隆・佐藤信行 (訳) かくれた次元 みすず書房)
- 今井四郎 (1978) 指示代名詞の指示機能について 北海道大学文学部人文科学論集, 15, 1-16.

Katz, D. (1937) *Animal and men*. New York : Longmans, Green.
 Kanizsa, G. (1955) *Margini quasi-percettivi in campi con stimolazione omogenea*, *Rivista di Psicologia* 49, 7-30.
 北川歳昭 (2003) 教室空間における着席位置の意味 風間書房
 小西啓史 (1988) ナワバリ行動における先着者優位の研究 対人行動学研究, 7,1-8.
 小西啓史・北岡和彦・荒井理帆・中屋淑 (2000) 指示代名詞法を用いた個人空間の研究, 人間研究, 1-12.
 小西啓史・野沢久美子 (2015) 行動空間における領域感とその評価 —空間表現語 (前、後ろ、真ん中、端っこ、隅っこ) からの一考察— 武蔵野大学人間科学研究所年報, 4,81-93.
 西出和彦・高橋鷹志・渡辺秀俊 (1988) 指示代名詞の使い分けによる個人空間の領域文節 日本建築学会大会学術梗概集 E, 547-548.
 Sommer, R. (1959) *Studies in personal space*. *Sociometry*, 22, 247-260.
 Sommer, R. (1969) *Personal Space: The behavioral basis of design*. Englewood Cliffs, NJ: Prentice Hall. (穂山貞登 (訳) (1972) 人間の空間 デザインの行動的研究 鹿島出版会)

Appendix

1. 教示

私たちは、ものを指し示すとき、「コレ」「ソレ」「アレ」ということば (指示代名詞) を使います。この調査では、どのようなときに、これらのことばを使うのかを調べたいと思います。次のページから3ページにわたり9つのシチュエーションが用意されています。どれも、ダイニングテーブルとそれを囲んで4脚の椅子が置かれていることを想定しています。今、あなたは◎のところに座っていると考えて下さい。そして、相手は○のところに座っています。

さて、テーブルの上の①～⑦のところに物が置いてあるとを考えて下さい。それらの物を指し示すとき、あなたは3つの指示代名詞のうち、どのことばを使いますか。回答欄にあることばの中から、自分が使うと思われることばを選んで○をつけて下さい。

2. 回答用紙例

○				○									
						①							
												②	
												③	
	④												
	⑤												
							⑥						
		⑦											
◎				◎									

①	コレ	ソレ	アレ
②	コレ	ソレ	アレ
③	コレ	ソレ	アレ
④	コレ	ソレ	アレ
⑤	コレ	ソレ	アレ
⑥	コレ	ソレ	アレ
⑦	コレ	ソレ	アレ